

何事にも「正解」を求めていく努力を



12月10日(木)には、猪瀬所長による「第2回目」の講義を実施しました。2部構成で行われた講義の前半では、教職員の不祥事の未然防止に関する動画を視聴し、後半では、「教員としての心がけ」についてお話をいただきました。

長期研修生からは、「自分の中にある『悪』や『弱さ』を認めることが、不祥事を『自分ごと』と捉えられるようになるという話が、衝撃的だった。」や「教員は『信頼されるものか、するものか』、子供たちは『教わるのか、学ぶのか』など、私達への『問い』を、所長さんから与えられたと感じた。」、「私達は何事にも『正解』を求めていく努力をすることが大切であるという話から、教職員の不祥事に関して、全く同じことが言えると感じた。」などの感想が聞かれました。

初の「大舞台」に臨みました

12月14日(月)に、6か月長期研修生を対象とした中間検討会を実施しました。これまでの検討会等は、研究分野ごとのグループで実施していましたが、今回は「全指導主事、主査からの指導・助言が得られる場」として設定されています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、3密を避けるために、当センターで最も人数を収容できる「大研修室」で実施しました。



長期研修生からは、「実際に始まってみると、緊張しました。指導主事や主査の皆様からのご指導・ご助言を真摯に受け止め、今後の研究に生かしていきます。そして、3月の研究発表会では、自信をもって発表できるように、さらに研究に精進します。」との感想が聞かれました。